

平成 3 1 年 3 月 1 5 日

平成 3 0 年度学校評価結果報告書

桶川市立桶川西中学校

校 長 相澤 仁志

1 目指す学校像 「きれいな環境の中で豊かな心と豊かな学びがある学校」

2 評価結果

領域	No.	評価項目	自己評価		学校関係者評価
			評価	説明及び学校の考え	
組織・運営	(7) 4	連絡等を通じ「情報を共有」し、共通理解の下に生徒の理解と指導に全職員で当たっている。	A 90%	職員同士で連携し合い、日々の教育活動が行われている。各分掌が学年の枠に留まらず、意見交換しながら運営し、生徒への指導も共通理解されている。	○学校教育全般について、教師間の連絡、情報の共有が良好である。 ○難しい問題も、様々な情報を把握・共有に努めている。 ○それぞれの評価は妥当と思われる。
	(6) 4	保護者や外部による評価を実施し、取組の充実改善を図っている。	A 85%	学校評価を計画的に実施。学校自己評価、保護者アンケートをもとに分掌部会を開き、改善案を提案。より組織的に諸活動を展開できるよう、工夫していく。	
学習指導	(1) 1	生徒の学ぶ意欲を喚起するよう、わかる授業を行うようにしている。	A 85%	昨年度の研究成果を生かし、論述、表現の可視化を充実させてきた。表現力、発表のスキル向上に向けた学習指導を推進した。 学年が上がるごとに、基礎学力が身についていっている。	○学力を把握し、全教科、課題解決に向けて職員は取り組んでいる。 ○学力向上に向けた取り組みの成果が出ている。 ○学習指導の候應の結果は成績だけではないので、情報機器やツールをうまく活用して取り組んでいる。 ○生徒の興味を大事にしている。授業がマンネリ化していない。
	(1) 7	学力向上のためにテスト前、及び休業日の補習を実施している。	B 78%	テスト前の2日間は質問日を実施。長期休業日中の5日間、個々の習熟度に適した指導を実施。夏季休業中の課題がなかなか進まない生徒の学習にも放課後等には補習として取り組んだ。普段は2ページの家庭学習を課題にし、粘り強く指導している。	○教師の取組が評価を上げている。どの項目も妥当な評価と思われる。 ○生徒から「授業が楽しい」「わかりやすい」という声が出ている。 ○グループ分けで生徒が協力して学習している。授業は学習意欲をわかせている。 ○どの項目も妥当な評価と思われる。
生徒指導・教育相談	(7) 2	生徒の観察等を通じて不登校・いじめ問題・問題行動の早期発見に努めている。	A 90%	学年会、教育相談部会、生徒指導委員会で情報交換し、その後、内容を全学年で把握している。自身の学年外の生徒も共通理解し、指導を入れられている。 観察により不登校、いじめ問題・問題行動の早期発見と組織で対応している。	○素直な生徒を見ていると教師との信頼関係が確立していると感じる。 ○不登校問題にも引き続き取り組み、一人でも多く解消していくことを望む。 ○いじめの早期発見、早期対応を組織で取り組んでいる。 ○細かい変化や行動を注意深く観察している。PTA活動に今後も協力していきたい。
	(7) 5	地域や家庭との連携・協力を努め生徒の健全育成を推進している。	B 83%	三者面談を定期的、または随時実施。欠席が連続する生徒への家庭訪問。 敬老会、ふれあいフェスタなど地域行事へ吹奏楽部が継続して参加している。 学校応援団による通学路安全点検やのぼり設置。	○志望校選択は文化祭など見学して決めるなど、主体性が向えた。 ○不登校問題には、外部からの人材を活用できたらと思う。 ○真面目で熱心な教師が多い。 ○今後も全職員で生徒指導に力をいれてほしい。 ○評価は妥当である。

健康教育	(3) 2	健康教育の充実を図るため年間計画に沿って指導している。	B 83%	保健日よりや校内掲示、職員からの声掛け等をこまめに行い、規則正しく、健康的な生活習慣・環境作りへの意識を高めた。虫歯治癒率状況、手洗いや歯磨きの効果等、健康に関する掲示物の充実。学校保健委員会や生徒集会を使って、健康教育の成果を発表した。	○食物アレルギー等、生徒の健康状態について細かく把握している。 ○給食の残りを少なくする（なくす）取組をしている。 ○評価は妥当である。
	(3) 3	食に関する指導を推進し、給食指導を充実させている。	A 88%	日々の給食活動の充実を図っている。季節や土地にちなんだ料理、栄養に関する掲示物の作成等、食に関する意識啓発を図っている。給食感謝会では、調理員の方々への感謝と、栄養をとることの大切さ等を給食委員会により発表した。	
学習環境	(5) 1	きれいな学校を目指し「清掃活動」「ボランティア活動」の向上に取り組んでいる。	A 93%	学校全体で、清掃活動やクリーン活動を通して校内美化に取り組んだ。環境委員主催の校内クリーン活動では、学年を超えて大勢の生徒が参加し、清掃を通して環境維持の意義を理解する機会とした。	○校内がとてもきれいであり、生徒の美術作品も多く展示され、よく整備されていた。 ○清掃が行き届いており、美術や学年行事に関わる展示物も多い。 ○生徒の元気なあいさつが気持ちよい。 ○通学路清掃など検討してもよいと考える。
	(5) 3	きれいな掲示や展示で心豊かな教室環境、学校環境づくりを行っている。	A 88%	学校生活や学習に関する記事や生徒が取り組んでいる活動がわかる掲示を充実させ、校内環境の向上を図った。言語環境を整えるため、挨拶、礼儀、言葉遣いについて共通認識をもった。	○工夫した掲示、作品展示により、活動の様子がよくわかる。 ○評価は妥当である。
教職員の資質向上	(1) 2	学習形態や指導法の工夫と改善を行っている。	A 85%	学校課題研究の取組として、効果的な形態を展開し、学力向上に向けた授業改善を日々実践した。年間4回の全校での授業研究会を実施。うち1回は本発表。研究授業の実施は教師の資質向上に直結した取組であった。	○教員、生徒の面接の結果、生徒の理解が深まる様々な工夫に取り組んでいることがわかった。また、生徒も先生も工夫を実感している。 ○生徒が授業を楽しんで受けていることがわかった。 ○生徒の落ち着きについて、地域の方からも耳に入る。生徒の面談でも生徒が明るく生き生きとしている。先生と生徒のよい関係ができていていると感じる。
	(7) 1	生徒とのふれあいや教育相談の充実で、生徒理解に努めている。	A 88%	教育相談部会、生徒指導委員会の定期的な開催で学年、学級、個々の生徒の様子を共有。個に応じた教育相談の一層の充実を図った。学級では生活ノートの記録から個別対応に力を注いでいる。	○評価は妥当である。
家庭・地域との連携	(6) 1	学校便り、学年通信、学級通信を発行し理解や信頼が得られるようにしている。	A 88%	学校教育、教育活動の「見える化」として重視している。ホームページ同様、生徒の具体的な姿の掲載に努めている。ホームページの更新も毎週行っている。	○計画的に学校だよりが発行され、内容にも工夫がある。 ○地域の方の西中生の「あいさつ」について好意的な話を耳にする。地域との連携の視点から継続した指導を求められる。 ○地域行事に積極的に参加している。今後、さらに拡大していただきたい。 ○一方的な発信はできているが、地域からの意見を吸い上げる工夫が必要に感じる。
	(6) 5	積極的に学校公開、授業公開を行い理解と信頼を得るようにしている。	A 90%	1学期2回、2学期3回、3学期2回、学校公開日として広く参観の場を設定した。また、教科授業の参観を重視した。本校の研究課題である思考力、表現力の向上を図る授業を提案できた。	○Aの評価は妥当である。今後も保護者の対応に尽力したい。

*評価項目については各学校で領域ごとに項目を2～3設定する。